

変動型最低制限価格の設定方法について

1. 対象業種

業務委託のうち、発注業種が「建築物清掃」、「屋外清掃」、「警備」、「施設運営・管理」の場合に、変動型最低制限価格を設定します。

(対象となる案件については、発注情報にその旨を表示します)

2. 最低制限価格（税抜）の算出方法

有効な入札のうち、入札金額の低い方から6割の入札価格の平均を求め、その平均額に0.8を乗じた額を最低制限価格（税抜）とします。

詳しくは、以下の【例1】から【例3】をご覧ください。

【例1】

予定価格（税抜）：1,455,000円

開札順	入札者	入札金額（円）	金額の低い順	
1	A社	1,450,000	第6順位	
2	B社	◇ 1,220,000	第3順位	
3	C社	◇ 1,355,000	第4順位	
4	D社	◇ 1,200,000	第2順位	← 落札
5	E社	1,400,000	第5順位	
6	F社	◇ 900,000	第1順位	← 落札外（低）

有効な入札数の6割の数は、

$$\text{有効な入札数 } 6 \times 0.6 = 3.6 \text{ (端数切り上げ) } \doteq 4 \text{ この数を算定数という}$$

- ① 有効な入札について、金額の低い方から順に順位をつける。
- ② 第1順位から算定数に当たる順位（第4順位）までの入札価格（上表の◇）の平均を求める。（万円未満切り捨て）

$$(900,000 + 1,200,000 + 1,220,000 + 1,355,000) \div 4 \doteq 1,160,000$$

- ③ 平均額に0.8を乗じる（万円未満切り捨て）。

$$1,160,000 \times 0.8 \doteq 920,000 \text{ この額が最低制限価格となる}$$

第1順位のF社は最低制限価格を下回っているので落札対象外となる。

第2順位のD社が最低制限価格以上でもっとも金額が低いので、落札となる。

【例 2】同額の入札がある場合の順位の付け方

予定価格（税抜）：1,455,000 円

開札順	入札者	入札金額（円）	金額の低い順
1	A社	1,450,000	第6順位
2	B社	◇ 1,250,000	第3順位 ※
3	C社	◇ 1,250,000	第4順位 ※
4	D社	◇ 1,200,000	第2順位
5	E社	◇ 1,400,000	第5順位
6	F社	◇ 999,000	第1順位 ← 落札
7	G社	1,455,000	第7順位

有効な入札数の6割の数は、

$$\text{有効な入札数 } 7 \times 0.6 = 4.2 \text{ (端数切り上げ) } \doteq 5 \text{ この数を算定数という}$$

① 有効な入札について、金額の低い方から順に順位をつける。

※ B社とC社は同額なので、開札順の早い方から順位をつける。

② 第1順位から算定数に当たる順位（第5順位）までの入札価格（上表の◇）の平均を求める。（万円未満切り捨て）

$$(999,000 + 1,200,000 + 1,250,000 + 1,250,000 + 1,400,000) \div 5 \doteq 1,210,000$$

③ 平均額に0.8を乗じる（万円未満切り捨て）。

$$1,210,000 \times 0.8 \doteq 960,000 \text{ この額が最低制限価格となる}$$

第1順位のF社は最低制限価格以上なので、落札となる。

【例3】 算定数に当たる順位の入札と同額の入札がある場合（平均額の求め方）

予定価格（税抜）：1,666,000 円

開札順	入札者	入札金額（円）	金額の低い順	
1	A社	◇ 1,450,000	第3順位 ※	☆
2	B社	◇ 1,450,000	第4順位 ※	☆
3	C社	◇ 1,450,000	第5順位 ※	☆
4	D社	◇ 1,001,000	第2順位	← 落札外（低）
5	E社	◇ 1,450,000	第6順位 ※	☆
6	F社	◇ 1,000,000	第1順位	← 落札外（低）

有効な入札数の6割の数は、

$$\text{入札数 } 6 \times 0.6 = 3.6 \text{ (端数切り上げ)} \doteq 4 \text{ この数を算定数という}$$

① 有効な入札について、金額の低い方から順に順位をつける。

※ A社、B社、C社、E社は同額なので、開札順の早い方から順位をつける。

② 算定数に当たる順位（第4順位）より、順位が後ろだが金額が第4順位と同額の入札が二つ（第5順位と第6順位）あるため、算定数に2を足した順位（第6順位）までの入札価格（上表の◇）の平均を求める。（万円未満切り捨て）

$$(1,000,000 + 1,001,000 + 1,450,000 + 1,450,000 + 1,450,000 + 1,450,000) \div 6 \\ \doteq 1,300,000$$

③ 平均額に0.8を乗じる（万円未満切り捨て）。

$$1,300,000 \times 0.8 \doteq 1,040,000 \text{ この額が最低制限価格となる}$$

第1順位のF社と第2順位のD社は、最低制限価格を下回っているので、落札対象外となる。

A社、B社、C社、E社は、最低制限価格以上でもっとも金額が低いので、この4者のうちで、くじ引きにより落札者を決定する。